# 第12回みんゆう新聞感想文コンクール作品紹介

## 小学3・4年生の部 優秀賞

### 大好きなあかつきモモ

本宮まゆみ小4年　後藤（ごとう）優実（まさみ）

私は、あかつきモモがとても大好きです。その大好きなあかつきモモの写真がのっていたので、新聞の記事をよみはじめました。

この記事には、しゅうかくが例年よりも出来が良いと書かれていました。私もきのう、おばあちゃんにモモをむいてもらって食べました。それは、とても甘くておばあちゃんにたくさんあかつきモモをむいてもらったけど、すぐになくなってしまいました。それなのに、今日も、モモの新聞を見ているだけでまた食べたくなりました。しかも、新聞には色あざやかな甘いモモと書かれていました。

さらに、新聞を読んでいくと、きびしいじょうきょうの中、モモをつくるのは、むずかしいと書かれていました。私は、モモをつくるのはかんたんではないだなとあらためて感じました。だから、てまをかけてつくるモモを私は大切に食べたいと思いました。今、福島のモモがオリンピックの選手村でも食べられています。それだけ、福島のモモは人気なんだと思います。

モモをデザートに金メダルを目ざして、がんばってほしいです。そして、メダルとおいしいモモをオリンピックの選手たちに、

「福島のモモは、おいしかったぁー。」

と国に帰った時、ほうこくしてほしいです。私も、おいしいモモをPRしていきたいです。さっそく今日も、あかつきモモを食べるのが楽しみです。そして、おいしいモモをつくってくれる人に感しゃしたいです。

おいしいモモありがとうございます。

### 文章でわかる算数のふしぎ

桜の聖母小3年　奥山（おくやま）創介（そうすけ）

ぼくは、毎週日曜日にとどく「みんゆうジュニアじょうほう局」を読んでいます。その中でも「読む算数」というコーナーがとくにおもしろいので、毎週楽しみにしています。

八月一日の記事は「どうしてより道をすると遠くなるの？」というぎ問に対する角形でいうと、一つのへんをまっすぐに行く方が、もうかた方のおれまがる行き方よりも近くなるということです。

ぼくは、一学期に「長い長さのたんい」で、きょりと道のりの学習をしました。ですから、まっすぐな長さのきょりの方が、道にそう長さの道のりより短いという事は知っていました。

しかし、なぜそうなるのかをだれかにせつ明することになったとしたら、言葉だけでつたえるのはむずかしいと思います。図を使えば、わかりやすくせつ明できるかもしれません。

この記事は、きょりと道のりを、三角形のしくみに当てはめてせつ明していて、読んだ時に「なるほどな。」と思いました。

長さと三角形を組み合わせると、イメージしやすくなることがわかりました。文章だけで算数のせつ明ができることが、すごいなと思いました。ぼくも、せつ明したり発表したりする時には、わかりやすくつたえる工ふうができるようになりたいです。

ぼくは、あまり算数がとくいではありませんが「読む算数」のコーナーを読むようになって、算数にはまだまだ知らない事があって、おもしろいなと思うようになりました。

これからも新聞を読んで、いろいろな発見をするのが楽しみです。

### 13年のがまん、努力むくわれ金

杉妻小4年　北湊（きたそう）吾

ぼくは、オリンピックでソフトボールに注目していました。理由は、道徳の授業で上野選手の事を知ったのと、お父さんに「見な。」と言われて見て、その後どんどん勝ち進んでいくのがおもしろかったからです。ライバルのアメリカを破り、金メダルを取れてよかったです。

上野選手はトレーナーの人が「最後の一ミリまで成長しないと気がすまない。」と言うくらい努力していてすごいと思いました。大会中にもすこしでもいい球を投げられるように投げ方を変えていることを知っておどろきました。北京で「これでソフトボール人生が終わってもいい。」と金メダルを取りました。でも、その後ロンドン、リオとソフトボールが競技から外れ、目標を失い、「燃えつき症候群」に陥った時は、もうそれ以上につらいことはなかったと思います。でも、絶対にあきらめずに来た東京オリンピックで、悲願の金メダル。これは、13年間の努力、がまんがむくわれた結果だと思います。上野選手を支えたのは「ソフトボールが好き。」「投げるのが楽しい。」という思いが心の底にあったからだと知りました。金メダルを取ったしゅん間の上野選手の表情はすばらしい笑顔でした。

ぼくは今、ラグビーを頑ばっています。ぼくが悔しいのはラグビーのし合でトライをとられて負けることです。ぼくは上野選手みたいにどんなにつらいことがあってもあきらめず、ラグビーを楽しみたいです。今は9月にある県そう体で優勝が目標です。上野選手のように、笑顔で終わりたいです。

## 小学5・6年生の部 優秀賞

### 喜ばれた桃

杉妻小6年　門馬（もんま）庄吾（しょうご）

僕の気持ちが温かくなりました。「こんなにおいしいものを食べたことがない」と東京五輪で福島市を訪れた野球の日本代表と、対戦相手のドミニカ共和国の選手が、県知事が差し入れた県産の桃を食べての感想だったとの新聞記事を読んでとっても嬉しい気持ちになりました。

東京五輪の女子ソフトボールと野球が福島市で行われることで東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から十年が過ぎ、本当であったら世界から様々な人がオリンピックの応援に福島を訪れ、福島の元気な姿を見てもらい、ふれあい、地元のおいしい食べ物を世界中の人が食べることができたのに、もっと、福島の良さを発信できたのに、そう思うと、新型コロナウイルスで無観客試合になったことが本当に残念に思いました。

福島の桃は、僕も甘くて大好きで、桃以外にもなし、ぶどう、りんごとまだまだ他にもおいしいものが沢山あります。お米や野菜、浜通りには、おいしい魚もあります。震災後、福島の食べ物は福島県以外の日本人も積極的には買ったり食べたりはしてくれませんでした。それは、一生懸命作っている人にとってどれだけ辛いことだったのかと考えると、今回の五輪開催で福島の食べ物を食べて笑顔になった選手の顔を見て、生産者の人がどれだけ嬉しかったと思うと、復興五輪は福島にとって素晴らしい力になったという県知事の言葉に僕は勇気付けられました。

### ぼくにもできるSDGsの取り組み

杉田小6年　佐藤（さとう）敬斗（けいと）

最近「SDGs」という言葉をよく見たり聞いたりする。SDGsは持続可能な十七個の開発目標ということを学校でも調べた。

この記事では、十七個ある目標の内の十二番目「つくる責任　つかう責任」が取り上げられている。この記事の中の小林さんは、これまで捨てきた柿の皮を使って、新しい商品を創り出した。小林さんの会社では、規格外品や未利用資源の見方を変え、新しい価値のある物に変えていっている。ぼくはこのことを知って、そんな考えもあったんだとおどろいた。

ぼくは、夏休みに入ってすぐに家の畑でじゃがいもほりをした。祖父母は、じゃがいもが無だにならないよう、必要な分だけ作っている。大きい物も小さい物も形が悪い物もあるけど、全部しゅうかくする。いわゆる規格外品でも、食べれば同じようにとてもおいしい。それに、とれたての時は、皮ごと食べる。考えてみると、これも「つくる責任　つかう責任」であるということ、SDGsは身近なところにあるんだということに気が付いた。

ぼくの学校の給食には、福島県産の食材がたくさん使われている。これからも残さず食べることもSDGsに参加することにつながる。SDGsは世界で取り組む大きな目標だと思っていたが、自分にも取り組んでいけることもあると分かった。ぼくも、いろんな見方をしながら、SDGsのことを考え、できることから取り組んでいきたいと思う。

### 福島の経験を未来へ

福島大付小5年　長谷川（はせがわ）慶佑（けいすけ）

東日本大しん災、原発事故の時、ぼくは0才だったため、当時の記憶は全く無い。しかし、家族から「あの時は震佑を守るのに必死だったよ」と聞いたり、テレビや新聞を通して当時の様子を知ったりして、いかに大きな出来事だったのかを感じてきた。

ある日、偶然に新聞にのっていた仮設住宅の記事が目に留まり、一気に読んだ。かつては、福島市内を車で走っているとよく仮設住宅を見かけることがあり、「ここに住む人達が早く元の生活に戻るように」、「安心してくらせるように」と思っていたからだ。

記事からは、住む人のニーズに応えながら、これまでとはちがった発想で仮設住宅の建設に取り組んだ人達の努力や、人はどんな時も他の人とのつながりが必要であることが強く伝わってきた。

また、以前、仮設住宅でボランティア活動をしていた人から、コミュニティーづくりのむずかしさについて話を聞いたことも思い出した。中には、あまり外に出ず、精神的にも参ってしまう人がいることや、ボランティアが、仮設住宅に住んでいる人同士や、地域に住む人とのつながりの場をつくっている話が印象に残っている。どうすれば住んでからの生活が少しでも豊かになるかと、住む人の気持ちになって支援していくことがいかに重要か気付かされた機会となった。

東日本大しん災、原発事故は福島の人達にはとてもつらく悲しい出来事だったが、この時の経験がその後、他の地域で活かされていることは、一人でも多くの人を救うことにつながっているだろう。福島の経験を無駄にしてはいけない。ぼく自身も、様々な情報や経験から自分なりの考えを持ち、未来に活かしたい。